

集落営農から版

令和3年6月15日 VOL. 36
大分県西部振興局生産流通部
大分県集落営農推進西部支部

水稻新品種「なつほのか」の大規模実証が始まる！

大分県内において水稻の7割を占める品種「ヒノヒカリ」では、近年温暖化等の影響を受け、特に平坦地での充実不足や白未熟粒による品質低下が問題となっています。

そこで、令和3年に良食味で高温に強い品種「なつほのか」の大規模実証ほを設置し、今後、普及拡大を図っていきます。

R2年産ヒノヒカリ検査等級

	大分県
1等	31%
2等	52%
3等	15%
規格外	3%

【「なつほのか」とは】

鹿児島県において、「にこまる」を親として育成された新しい品種です。

現在、鹿児島県と長崎県で奨励品種に採用されています。

【なつほのかの特徴】

(水田農業グループ・宇佐市)

ヒノヒカリと比較して、

- ①出穂期は4日、成熟期は7日程度早い
- ②稈長、穂長は同程度、穂数はやや多い
- ③収量性はやや高い、大粒で千粒重は重い
- ④品質はやや優れ、食味は概ね同程度
- ⑤高温耐性に優れ、耐倒伏性も強い

【西部地域における実証栽培】

日田市大字小野で(農)小野谷が実証栽培を行っています(場所は右下の地図参照)。

見学自由ですのでヒノヒカリとの生育の違いをご覧ください。ただし、許可なくほ場内には入らないでください。

【普及計画】

大分県では、「なつほのか」を「ヒノヒカリ」に代わる品種として、令和6年産において3,000ha作付を目標に関係機関と一体的に推進していきます。



なつほのか



ヒノヒカリ



※大分県庁HPで品種特性や実証ほの生育状況を見ることができます。

[なつほのかのページ](#) [検索](#)

機械化で高収益品目の本格導入へ！

～（同）いろいろの取組み（玖珠町草ノ入江）

大分県では水田農業地帯の収益性向上を目指して高収益品目の導入を図る「水田畑地化」の取組みを推進しています。集落営農でも試作を行う組織が増えてきましたが、労働力の確保や作業時間の長さが面積拡大や本作化の際の課題になっています。これらの課題を解決するためには「機械化体系」の導入が必要になります。

玖珠町の（同）いろいろでは昨年サトイモを導入し一定の収益性があったことから本年面積を43aから80aに拡大しました。昨年は手作業で行ったため時間がかかった植えつけ作業を本年は植付機による作業に切替えました。植えつけ作業を行った役員さんによると、複数名で長時間かかった作業が1人で出来たと評価されていました。

このような専用機械は比較的高価で一組織では年間の稼働日数が少ないことがネックですが、近年は組織間連携で導入負担軽減を図る取組みも行われています。共同利用機械の活用で高収益品目の導入が拡大していくことが期待されます。



「さといも植付機による作業」

その作業、もっと楽に安全になりませんか？

～作業点検のススメ



「苗箱運搬の補助具」

や手順が本当に安全なものか、今一度見直すことが必要です。

玖珠町の（農）こごでは、本年度から新規オペレーターが参画することを契機に、農作業の見直しを進めています。まだ播種や育苗の段階ですが、「椅子を使った方が楽になる」「天井から吊るベルトには絶対首を突っ込まないように」などの改善点が続々と出てきています。

また、（有）小田アグリファームでは苗箱運搬の際に手や腰の負担を軽減するために補助具を考案しました。安価で簡易に作成可能で省力化が期待されます。

事故防止や作業負担の軽減のため、皆さんも日常作業の見直しを行ってみませんか？

農作業の死亡事故件数は近年高止まりが続いており、全体の事故件数が依然として多いことが推察されています。特に集落営農組織では共同作業・共同営農が基本になることから、慣れない機械、慣れないほ場での作業が多くなりがちです。事故が発生する前には事故に至らないもの

の「ヒヤリハット」が多くあると言われていています。事故を未然に防ぐためには、慣れた方には「当たり前」の作業



中腰でキツイ・・・



椅子を使うと楽！

「播種作業 改善前と改善後」

視察研修報告 (日田集落営農組織連絡会)

令和2年11月25日に(有)内田農場(熊本県阿蘇市内牧)を集落営農6組織と関係機関の18名で視察しました。

内田智也社長(35才)は、2014年に父親から経営を承継し経営面積約55ha及び作業受託30haを行っています。そのうち水稲は45haを作付していますが、7品種で作期分散を行うことから、田植機1台、コンバイン1台のみで稼働率を上げる取組を行っています。



「説明する内田社長(右端)」

地域的に借地料が高く、比較的単収は低いため、米を高く売る努力を行っており、特に実需者との契約による受注生産に力を入れています。

大規模経営における大きな機械が目を見ますが、内田社長の収益を上げるための工夫や努力などの経営感覚は、集落営農組織にとって大変参考となりました。

(有)内田農場は、「ニーズに応じた米づくり」が評価され、2020年度全国優良経営体表彰の販売革新部門で農林水産大臣賞を受賞されています。

良い米づくりは土づくりから!水稲土づくり研修会の開催

(玖珠九重集落営農組織連絡協議会)



「食味コンクールの様子」

玖珠九重集落営農組織連絡協議会の主催で毎年開催されている「食味コンクール」は今回で5回目となりました。良食味の組織を表彰することで会員組織間の研鑽を促進することが会の目的ですが、今回は全体的な底上げにつなげようと表彰行事と合わせて「水稲土づくり研修会」を開催しました。

研修会はコロナ禍であったため、協議会としては初めてリモート会議方式で実施されました。講師の「大分土壤医の会」小野会長から、土壤診断項目の詳細や玖珠九重地区の土壤の特徴、収量・食味向上

のための土づくり等の説明がありました。会場からは各組織において土壤改良に必要な資材を検討する声が聞かれました。昨年はトビイロウンカによる被害等もあり地域全体では収量が大幅に低下しましたが、今回表彰対象となった米は例年のものと遜色ない食味でした。本年はこれまでの取組を活かし高品質な米生産が期待されます。

【第5回食味コンクール結果】

	コシヒカリ部門	ひとめぼれ部門	ヒノヒカリ部門	その他品種部門
最優秀賞	串梶水稲生産組合	串梶水稲生産組合	(農)実業営農組合	(農)こご/つや姫
優秀賞		(農)きりかぶ	(農)田の口	
優良賞		(農)こご	(農)わいわい元気村	

水稻のトビロウカの飛来に注意！！

ウンカ類の飛来解析によると大分県に5月上旬から複数回の飛来が予測されており、昨年と同様にトビロウカが大発生する可能性があります。今後の発生状況に注意をしてください。

大分県農林水産研究指導センター農業研究部・病害虫対策チームのホームページでも情報発信をしています。

(*スマートフォンの場合は右上側の二次元コードから、パソコンの場合は <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/> からアクセスしてください。)



トビロウカ

最新の農業情報をお知らせしています

振興局では水稻作を中心に、病害虫や気象災害情報などのメール配信を行っています。一度アドレスを登録いただければ随時最新の情報をお届けします。上記のホームページと合わせて情報収集に是非ご利用ください！

(*メール配信を希望される方は nosan-seibu@pref.oita.jp宛てにお名前、お住まいの集落名をご記入の上、送信してください。スマートフォンの場合は、右下の二次元コードからメール作成画面へアクセス可能です。)

【メール内容具体例】 件名：西部振興局メール配信
本文：氏名、住所、集落名

農林水産研究指導センターHP



西部振興局メール配信



西部振興局 集落営農担当のご紹介

4月の組織改正により、班名が「集落営農・水田畑地化班」に変わりました。また、人事異動で人員の入れ替わりがありました。

本年度は以下の分担で集落営農を担当していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

役割分担表



大窪 雨川 菊屋 阿南

氏名	地区名		
	日田市	玖珠町	九重町
大窪恵美子	○	○	○
雨川公洋	◎		
菊屋良幸	○	◎	
阿南壮一郎			◎

(◎：主担当、○：副担当)

作成・発行 大分県西部振興局生産流通部 集落営農・水田畑地化班
監修 大分県集落営農推進西部支部
TEL：0973-23-2217 FAX：0973-23-3473